



FAEGER

農業から生まれる「環境価値」を収益へ  
～プログラム型プロジェクトによるJ-クレジット創出の取組～

2026年3月

株式会社フェイガー

# OUTLINE

---

1. フェイガー社について
2. カーボンクレジットとは？
3. 具体的な取組事例

## 会社概要

世界をもっとサステナブルに。  
社会をもっとフェアネスを。

私たちは、持続可能な農業の実現のため、  
農業界のカーボンクレジットの活用と、  
環境適応のための支援を行っています

社名	株式会社フェイガー (英語表記 Faeger Co. Ltd.)
本社所在地	〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル3階 0 Club
電話番号	+81 (03) 6824 -0769
創立	2022年7月
資本金	1億円 (2025年6月現在)
主要株主	インキュベイトファンド、環境エネルギー投資、 JIC-VGI、東京海上ホールディングス、鈴与商事、 農林中金キャピタル、住商ベンチャーパートナーズ、 みずほキャピタル
チーム	約80名 (業務委託含む)
事業内容	農業由来クレジットの生成と販売 環境配慮型農業の推進に資するサービスの提供

# フェイガーのミッション・ビジョン

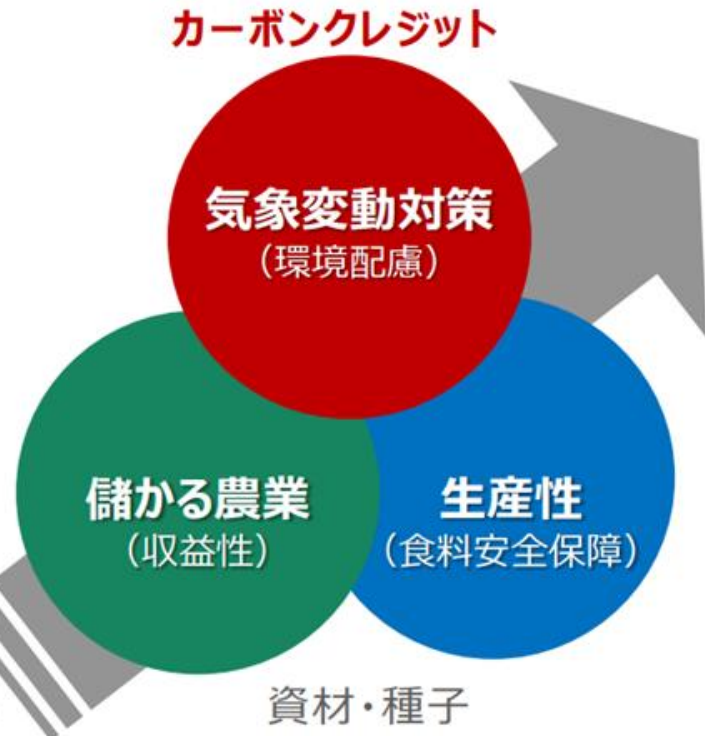
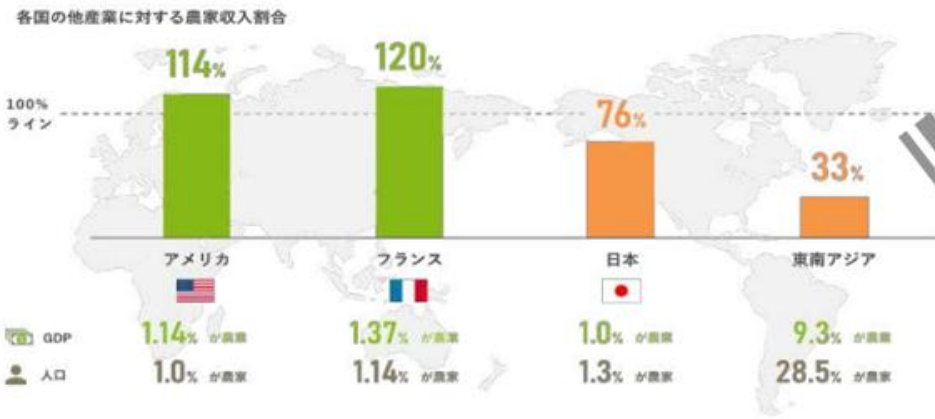
フェイガーは持続可能な農業（環境配慮・収益性・生産性を実現する農業）の実現を目指し、まず初めにカーボンプレジット制度を活用した農業の気候変動対策の拡大を行なっています。

## 気象変動による被害が増加

水害・干ばつ (水不足/豪雨)      高温障害 (猛暑/干ばつ)      施設被害 (台風の激化)

農業生産への影響

## 日本の農業は儲かっていない



既存の農地での持続可能な生産性の向上が必要

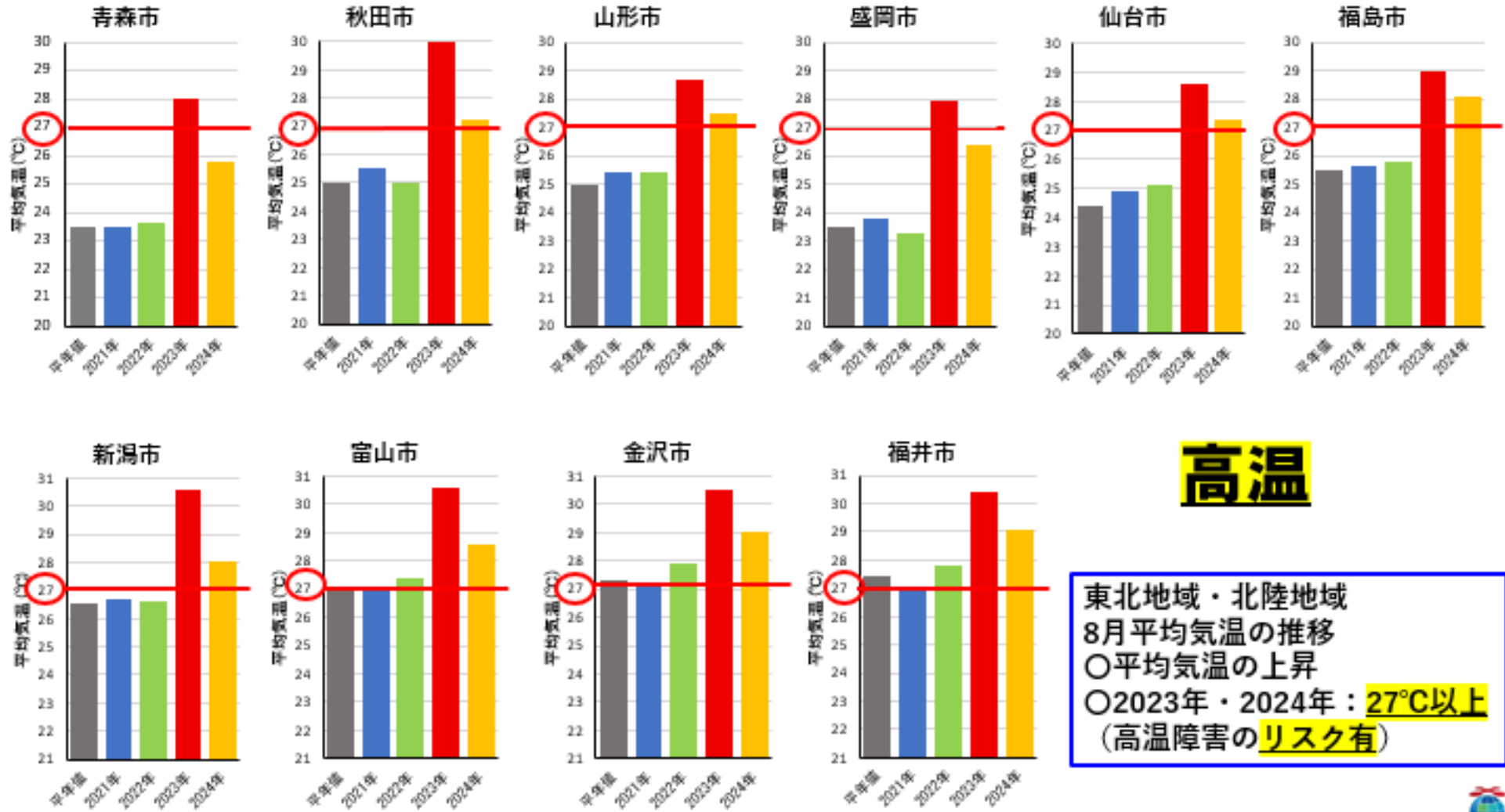
サステナビリティ & 生産性

日本が生産できる食べ物は  
約 **9,000** 万人分

化石燃料が無かった場合  
約 **3,000** 万人分

将来、日本が十分な食料を確保できるか不安

# 水稻栽培における近年の急激な高温の影響について



**高温**

東北地域・北陸地域  
8月平均気温の推移  
○平均気温の上昇  
○2023年・2024年：27°C以上  
(高温障害のリスク有)

- 2023年・2024年は東北・北陸でも8月の平均気温が27°Cを超えた
- 10年～20年の単位ではなく、ここ数年で急激に気温が上昇しており、それに対して水稻作もモデルチェンジしなければいけない



出展：ファームフロンティア

# 解きたい課題：農業分野における気候変動に対する緩和と適応

- 2025年に、気候変動による影響に関して、稲作農家1,138名への調査を実施。
- 調査の結果、気候変動による影響で、収量が低下した農家が33.6%、品質が低下した農家が36.7%が明らかとなった。
- **気候変動を緩和すると同時に、すでに起こっている気候変動に適応し生産性を維持することが重要。**

調査結果

農業では、すでに気候変動の実害がでている。

対策

横断的な技術を組合せたレシピ

33.6%

収量が低下した

36.7%

品質が低下した



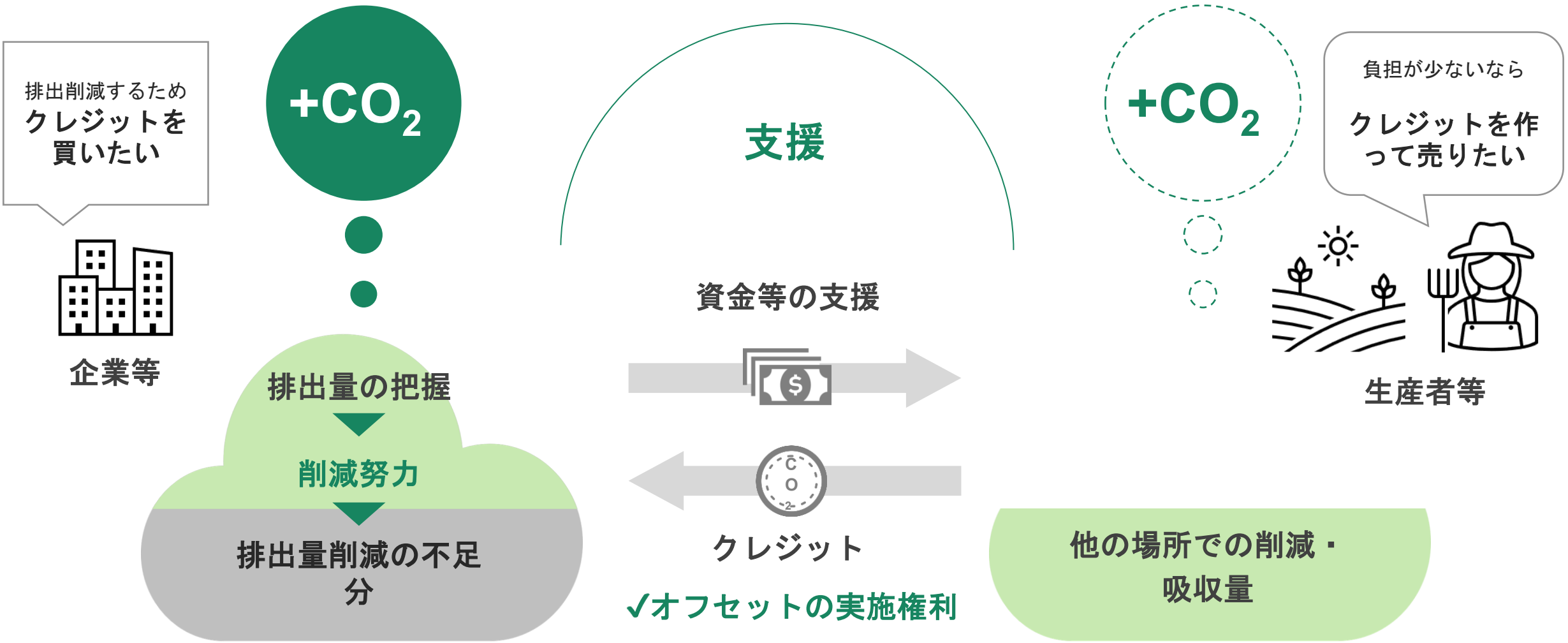
# OUTLINE

---

1. フェイガー社について
- 2. カーボンクレジットとは？**
3. 具体的な取組事例

# カーボンクレジットとは？

→脱炭素社会に向けて温室効果ガスの排出削減量を売買する仕組みです



# 農業におけるカーボンクレジットの位置づけ

農業が排出する温室効果ガスは全体の**10%以上（影響大）**であり、対策が求められています。また、生産現場では、温室効果ガスによる**気象変動の実害**も出始めています。地球温暖化対策は、他産業が主流でしたが、近年、農業における温室効果ガス削減が注目されており、カーボンクレジットは、**対策を実行した生産者へ対価を提供する手段**の一つです。

## ① 温室効果ガスが大気中の排出される

第1次産業	農業
24%	10%



## ② 気象変動が起こる

### 気象変動

気温・界面上昇、降雨  
パターンの変化など  
強風被害・洪水被害

## ③ 農業被害がでる

### 気象変動の影響

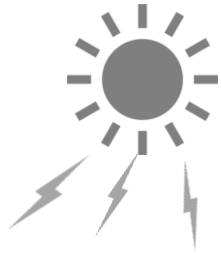
生活、社会、経済、自  
然環境への影響  
生産性・品質の低下

気象変動による実害が出ている

水害・干ばつ  
(水不足/豪雨)

高温障害  
(猛暑/干ばつ)

施設被害  
(台風の激化)



農業生産への影響

## 地球温暖化を緩和

### 温室効果ガスを減らす手段

エコカー



再エネ



節電



森林管理



農業



### 気象変動に適応する手段

品種



資材



栽培方法



適地

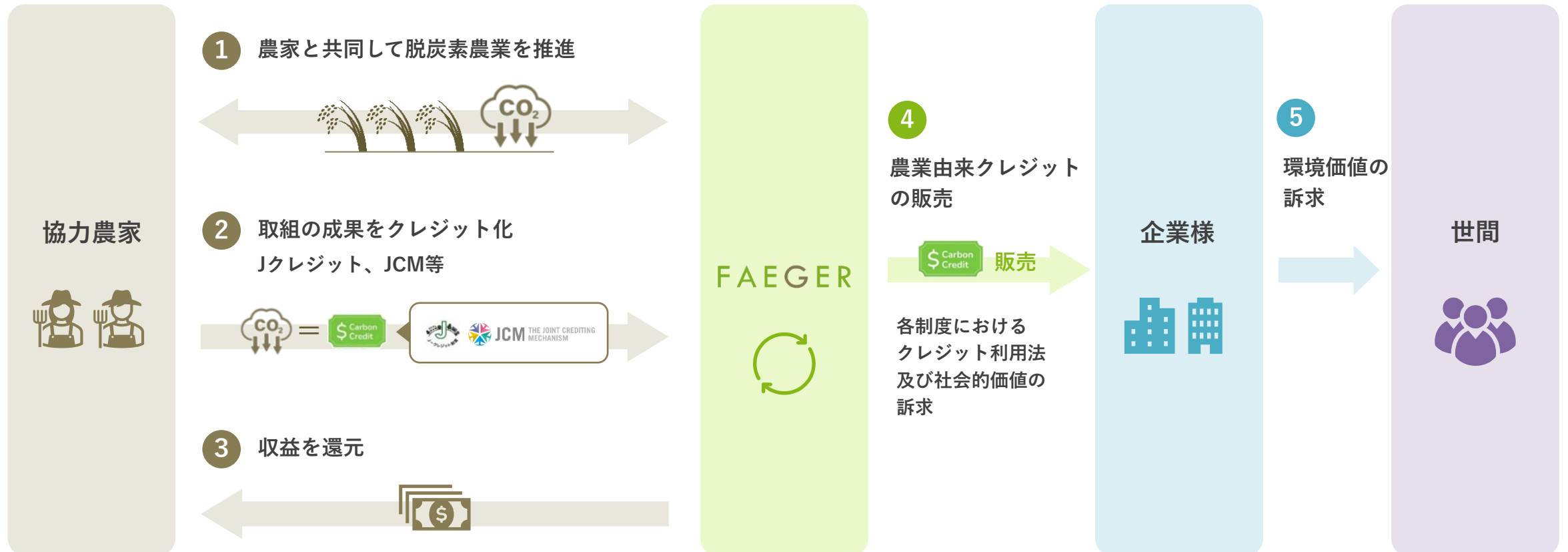


# フェイガーのカーボンプレジット関連のビジネスモデル

カーボンプレジットを生成・発行すると同時に、企業のクレジット利用方法提案を実施。  
環境価値の浸透に努めています

農家様と協力してカーボンプレジットを生成

企業様の環境価値訴求を支援



# なぜ今、農業でプログラム型のカーボンクレジットなのか？

---

## ➤ 世の中の脱炭素の潮流（サプライチェーン排出量削減の要請）

- 課題: しかし、個々の農家・農業法人が単独でJ-クレジットを申請するのは現実的ではない。
  - ✓ 申請書類が膨大（数百ページ）。
  - ✓ 審査費用が高額（数十万～百万円単位）。
  - ✓ モニタリング（記録）が複雑

## ➤ 「やりたいけどできない」を解決するのが今回の事業テーマ

- ✓ フェイガーが申請書類を取り纏め
- ✓ 初期費用・申請費用はフェイガーが負担（コスト・リスクはほぼゼロ）
- ✓ 現役農家が多く所属するフェイガーならではの農家視点でのモニタリングサポート

# OUTLINE

---

1. フェイガー社について
2. カーボンクレジットとは？
- 3. 具体的な取組事例**



**AG-005**

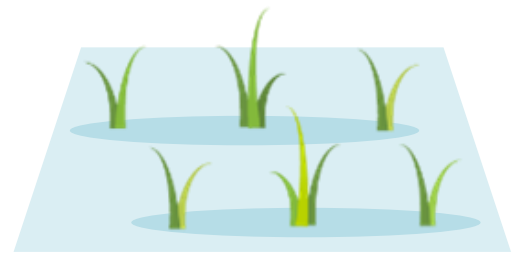
**水稻栽培における中干し期間の延長**

# 水田の中干し延長による温室効果ガス削減とは？

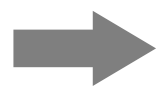
水稲の中干しを過去2年間の平均より「1週間延長」するとメタンガスの排出量が「30%減」る  
 生産者様は、中干し延長の実施により「日本の温室効果ガスの削減に貢献」  
 さらに、クレジット収入を活用して、「生産コストの低減」や「雑収入」として活用可能



通常の中干し

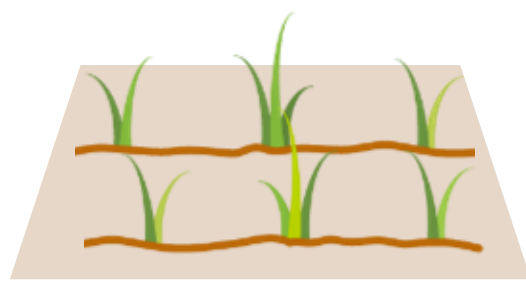


湛水（嫌気）状態で、メタン生成菌が活性化

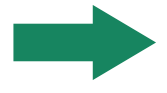


$CH_4$ は $CO_2$ より  
25倍温室効果が高い

中干しの延長



中干し期間の延長により、  
メタン生成が抑制される



# 日本の「水稻栽培における中干し期間の延長プロジェクト」の実績と展望

- 2023年から2025年にかけて取り組み面積22倍、農業分野においては日本最大のプロジェクトを運営  
2030年までに日本の水田の20%（30万ha）で100万トンの脱炭素化を実装予定



取り組み規模

- : 大
- : 中
- : 小
- : 未実施地域

## 2023年 実績

取り組んだ生産者数

**60戸**

生成クレジット

**1,600**  
ヘクタール

約 **5,955**  
t-CO<sub>2</sub>

## 2024年 実績

取り組んだ生産者数

**1,221戸**

生成クレジット

**25,202**  
ヘクタール

**135,944**  
t-CO<sub>2</sub>

## 2025年 実績

取り組んだ生産者数

**約1,776戸**

生成クレジット  
(第68回J-クレ認証委員会申請中)

**36,436**  
ヘクタール

**225,735**  
t-CO<sub>2</sub>

- 参画地域 (36都道府県)
- 北海道  
北海道
  - 東北  
青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
  - 関東  
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、山梨県、長野県、静岡県
  - 北陸  
新潟県、富山県、石川県、福井県
  - 東海・近畿  
岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、兵庫県
  - 中国・四国  
鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県
  - 九州・沖縄  
福岡県、大分県、宮崎県、熊本県

# 生産者と企業と地域を繋ぐカーボンプレジット

取り組んで頂いている生産者様が持つ想いや取り組みの様子を購入企業やその先のエンドユーザーに届けること



地域の豊かな自然環境を、  
後世に受け継ぎ、農業の明るい未来を実現したい

農業法人 株式会社 こびっと

有名な山々に囲まれ、そこから出てくる伏流水を源流にした山梨県北杜市  
フェイガー初年度2023年に「水稻栽培による中干し期間の延長プロジェクト」に協力。

企業の評価が、農業者に形として戻ってくる  
J-クレジットは僕の思い描いていた理想の形。

**VALUE**

環境負荷を抑えるさまざまな取り組みを評価してもらえる場が実は少ないと感じていました。

環境負荷を抑える取り組みを企業に評価していただくことが財源になり、農業者に形として戻ってくる。僕が本当に理想とする形だと思いました。

農業をやっていくことが評価される  
明るい未来が待っているのを感じます。

**FUTURE**

中山間地でのお米づくりは平地でのお米づくりとは効率がまったく違う。見えない苦労はたくさんある。だけど、ありのままの姿を伝えることで、そのひとくちが美味しくなるのかなと思っています。  
そのために、この地域の風景だったり自然環境、田んぼのなかの豊かな生態系を守りたい。J-クレジットの普及とともに、田舎で農業をやっていくことを評価してくれる人がたくさん増えていくと思うことだと思っています。

農業界には課題もあるが、  
豊かな自然環境を守り「おいしい」と言ってもらいたい。

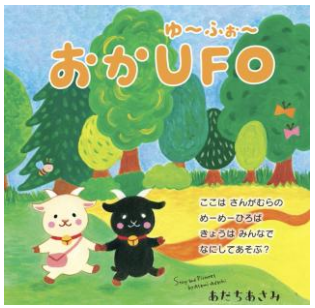
**Background**

離農される方も多し、高齢化も進んでいる。農業作業・共同作業を軸にした地域のコミュニティも失われつつあるなかで、最初は苦勞することもありました。でも、だからこそ、後世の農業者に何を受け継いでいくべきか、この地域のよさや特徴をいかに消費者に伝えていくかを常々考えています。



# 生産者と企業と地域を繋ぐカーボンプレジット

取り組んで頂いている生産者様が持つ想いや取り組みの様子を購入企業やその先のエンドユーザーに届けること



追加収入を活用して、  
 どうかして農家に夢や希望を与えたい

青山農場 五十嵐 晃樹様

「クレジット生成の追加収入は設備投資に使うことも考えたが、従業員を連れた社員旅行に使用しようと思っている。離農する方も増える、燃料代や肥料代も高騰して経営が苦しい。そうした状況の中で、どうかして農家や従業員に夢や希望を与えたいと思っていた。これからの人に夢を持たせたいと思っていた。追加収入は人のために使おうと決めました」。

温故知新で  
 環境にも地域にも子供達にも優しい農業を

新潟県十日町市 農業組合法人ふれあいファーム三ヶ村 水落良太様

「環境に配慮した農法に取り組み始めたきっかけは、昔からいた動植物がいなくなったことと地域の景観を守りたいという思い。薬剤を減らしたところ、翌年からトンボが戻ってきた。今では天然記念物のオオサンショウウオや他では見かけなくなった鳥類、ニホンカモシカも見ることができる。オリジナルの絵本や農業体験を通して、子供たちが笑顔になれる環境やおいしい食べ物をつないでいきたい。」

## 事例：トヨタ自動車東日本さまとの取り組み

- 大企業も農業由来のカーボンクレジットに注目しており、一緒に取り組みを推進していく枠組みを構築できることが、フェイガーの強みです。

協業を開始 –カイゼンと農業の脱炭素化で築く、  
持続可能な復興支援とものづくり

2025.05.08



トヨタ自動車東日本

FAEGER

東北地域における持続可能な復興支援とカーボンニュートラルなものづくりの実現に向けた協業を開始。  
本取り組みにより、一過性の支援にとどまらない、地域経済と環境の両立を目指す。



# 事例：東北電力さまとの取り組み



## フェイガー クレジット 購入目的

- 「東北の繁栄なくして当社の発展なし」という企業スタンスを体現する、**自社事業と地域農業の共存を図る取り組み**として採択
- フェイガーの取り組みを持続可能な農業に貢献するための**新たな取り組み**という位置づけ

## 今後の 展開検討内容 (公開情報)

- 地域全体でサステナブルな農業が実現が促進されること**
- CSR活動として各支店がJA訪問の際に中干の取り組みについて紹介することも検討

## 購入クレジット 活用想定

- 自社主催イベントのオフセット
- 事業所単位のオフセット
- 電力商品への組み込み



農業体験（社内外向け）



生産者説明会でのPR



自社イベントのオフセット



社食等社内向けCSR活用



株主総会で  
環境配慮米を配布



**AG-004**

**バイオ炭の農地施用**

# バイオ炭とは？

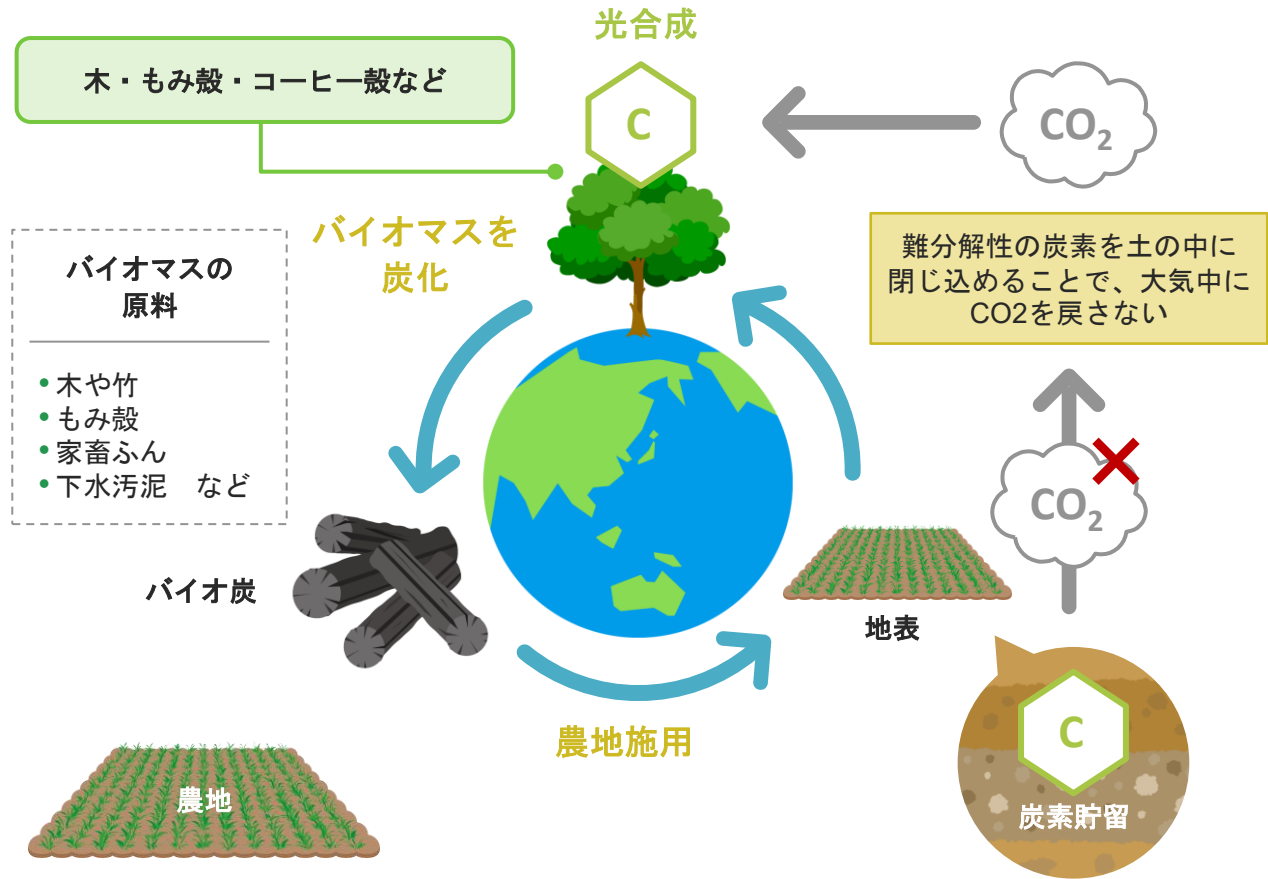
**燃焼しない水準に管理された酸素濃度の下、350℃超の温度でバイオマスを加熱して作られる固形物。**  
 J-クレジットにおいて除去系クレジットとして手法が登録されている。

**1 バイオ炭化によって炭素がCO<sub>2</sub>に戻るのを回避**

本来なら燃焼や破棄によって短期でCO<sub>2</sub>として空気中に戻っていたバイオマス(炭素)が炭化され、CO<sub>2</sub>として戻るのを回避する。

**2 バイオ炭の農地施用によって炭素を貯留**

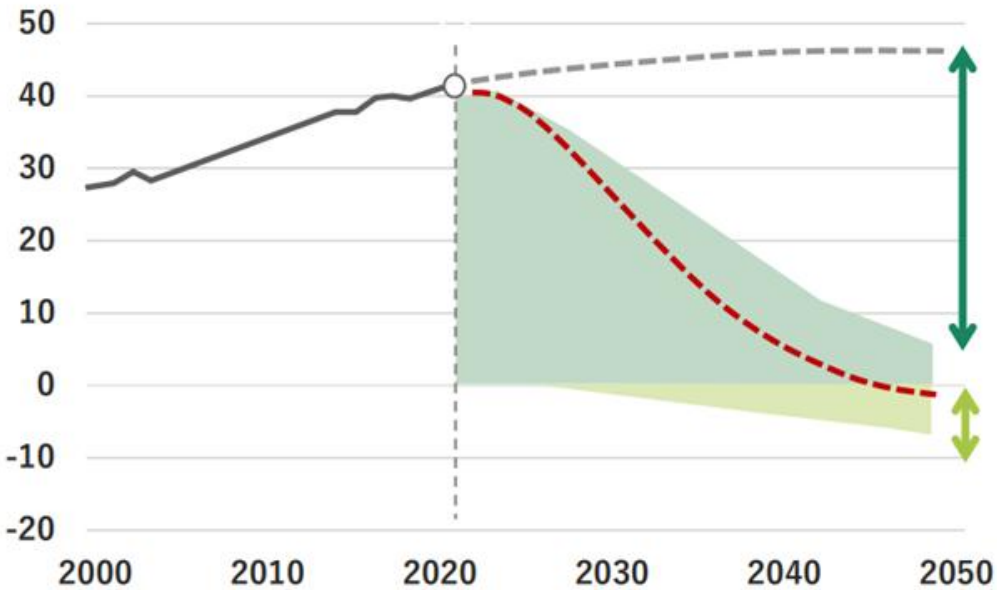
バイオ炭は農地／土壌に入るその多くの炭素が数百年間分解されずに貯留され続ける。



# バイオ炭事業背景

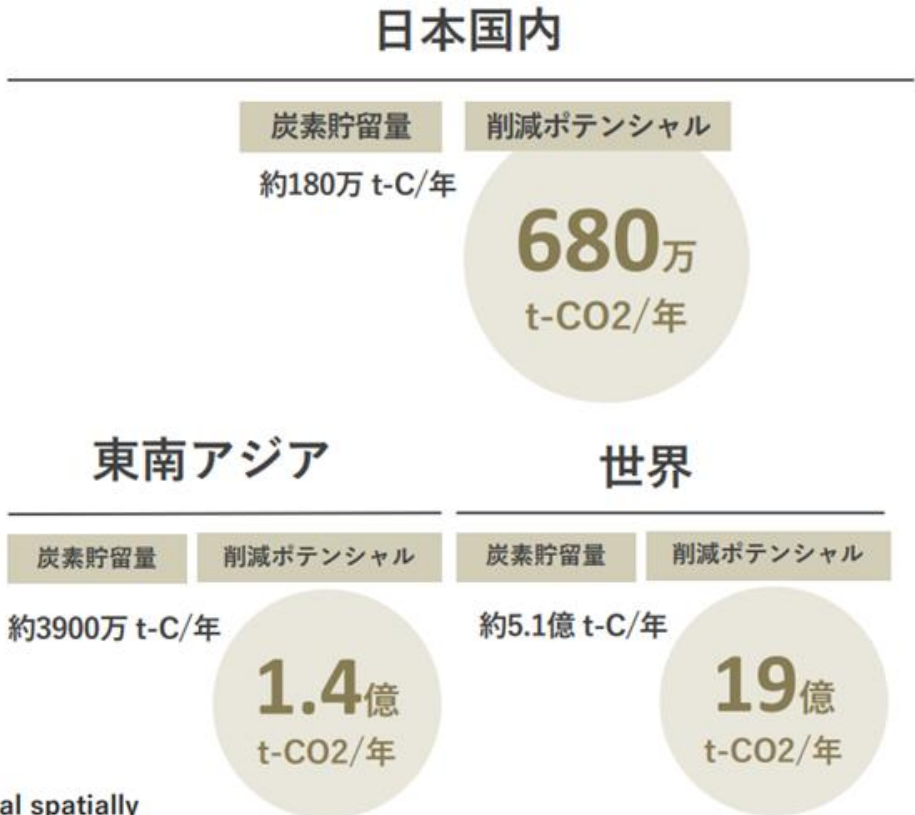
2050年のネット・ゼロ達成のために、GHG排出量の削減と空気中からの吸収・除去の両方が必要とされており、農業分野はその両方に貢献できるポテンシャルがある。吸収・除去においては、バイオ炭のポテンシャルが大きく、農業分野が大きく貢献できる領域である。

## ネットゼロへの道のり



- Reduce**  
：排出される予定だった炭素を出さないようにすること
- Remove**  
：すでに空気中にある炭素を取り除くこと

## バイオ炭の炭素除去によるポテンシャル※1

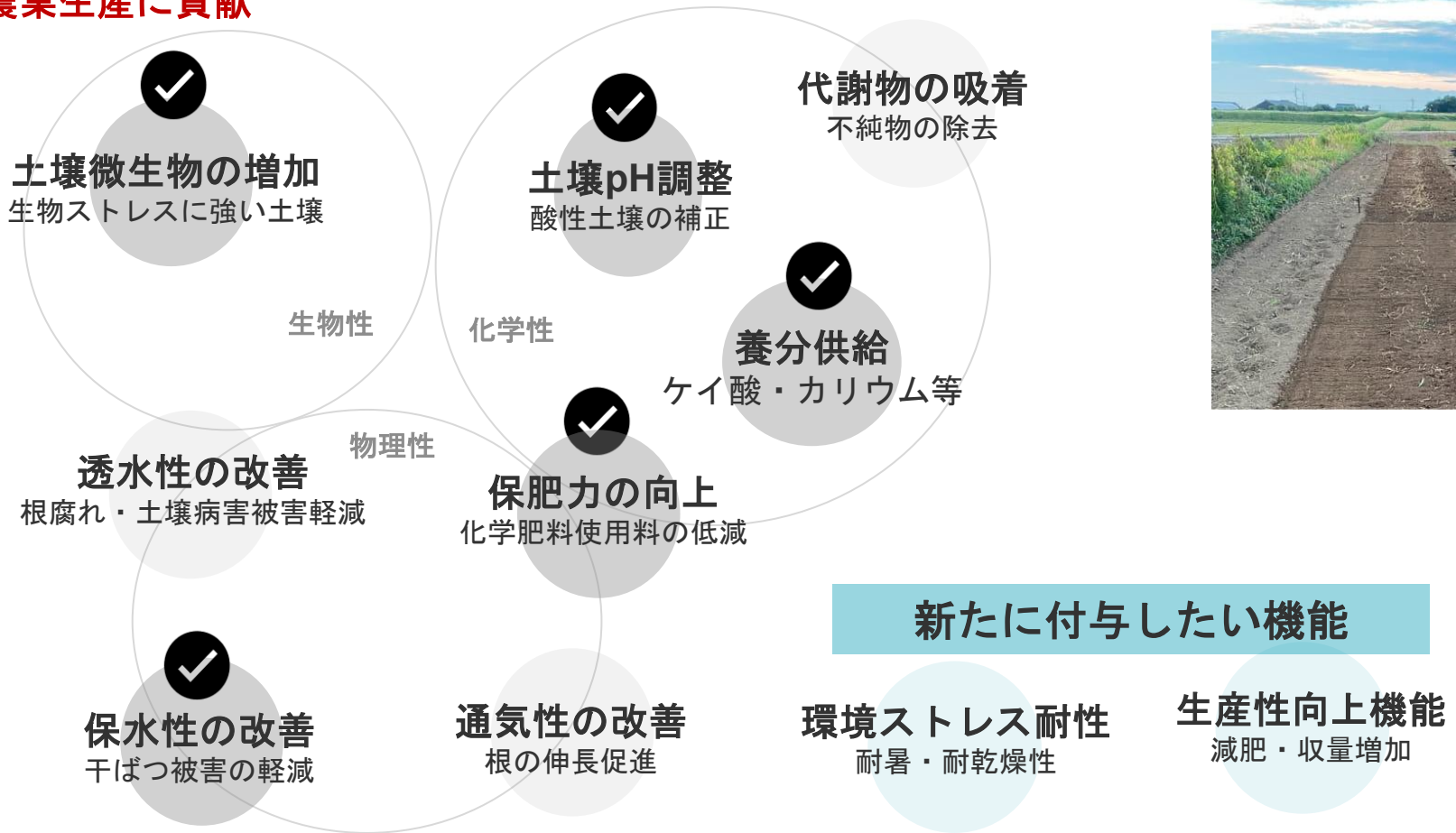


※1: Shivesh Kishore Karan, Dominic Woolf, 2023 "Potential for biochar carbon sequestration from crop residues: A global spatially explicit assessment" をもとにフェイガー試算

# バイオ炭の農地施用による土壌への効果は？

バイオ炭施用により、「**土壌pH調整・保肥力の向上（養分供給）**」「**保水性（透水性・通気性）の改善**」「**土壌微生物の増加（炭の多孔性）**」などの土壌改良効果があるとされる。

## 農業生産に貢献



## バイオ炭の農地施用への都内協力農家様 (東京都吸収除去系カーボンクレジット創出促進事業)

- ファームマチダ様・鈴木農園様にご協力いただきバイオ炭施用試験を実施。
  - ✓ ファームマチダ様(3a):20t/ha水準の木質バイオ炭施用で、玉ねぎの栽培試験。
  - ✓ 鈴木農園様(10a):11.5t/ha水準の木質バイオ炭施用で、コマツナ・赤カブ・白菜などの栽培試験。
- **第68回認証委員会(26年3月)のJ-クレジット申請中(2,600kg-CO<sub>2</sub>の炭素貯留)**



ファームマチダ様



八王子市 鈴木農園様

## 東京都内での実証試験の結果

- 木質バイオ炭施用による効果として、土壌分析結果から、化学性の変化はほぼなし。
- しかし、収量の改善効果が見られたことから、「物理性」「生物性」による影響が大きいものと想定される。

### 生育良好

たまねぎ  
バイオ炭施用量20t/haであって  
も生育に影響なし  
(物理性の改善を実感。  
今後の減肥効果に期待)



ファームマチダ様

### 収量2倍！

品目:コマツナ・赤カブ・白菜・ラディツ  
シュ・ルッコラ・キャベツ苗  
バイオ炭施用量11.5t/ha  
肥料分が保持しにくい土壌性質が改善  
「玉も揃っており、ムラなく収穫」



八王子市 鈴木農園様

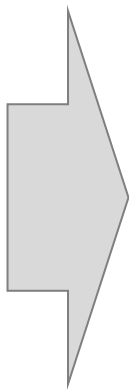
## 都内における炭化インフラ構築に向けて

- ✓ 町田市\_農業法人(ファームマチダ)が放置竹林の処理受託の炭化インフラ導入\_実証試験を実施
  - ✓ バッチ式炭化炉導入による農業支援サービスとクレジット生成の検証
- ✓ さらに、次の都内未利用資源循環モデル検討に向けて連携中（多摩地域 公園剪定枝利用 など）



## 都内における炭化試験概要

- 炭化オペレーション: 伐採処理・炭化設備への投入方法・温度・気圧コントロール など
  - ✓ 安定的な炭化品質の担保に向けた炭化試験を継続



炭化できなかったものも・・・

# 事例：伊藤園さまとの取り組み

- 食のサプライチェーンの中で、一緒に環境配慮型農業モデルを構築するために、実証試験に興味ある大企業は少なくありません。

## 茶畑へのバイオ炭の農地施用実証試験と カーボンクレジット化を埼玉県入間地区で開始

2025.11.26



- 地域の未利用バイオマスを活用し、農林水産省「みどりの食料システム戦略」に沿った地球温暖化対策としてGHG削減効果が期待されるバイオ炭の農地施用を実証
- JAいるま野が所有するバイオマスを有効活用
- 実証試験で得られた炭素貯留効果はフェイスガーによりカーボンクレジット化・収益還元を一貫して進める

### 環境配慮+地域循環型農業モデル



# 農業分野の温室効果ガス削減ポテンシャルは大きい

FAEGER

## 地域別、メソドロジー別温室効果ガス削減ポテンシャル

### 日本国内

### 東南アジア

### 世界

水田中干し/AWD  
による  
ポテンシャル※1



作付面積

1,355,000 ha  
(令和4年)

削減ポテンシャル

300万  
t-CO<sub>2</sub>/年

作付面積

70,440,000 ha

削減ポテンシャル

1.6億  
t-CO<sub>2</sub>/年

作付面積

117,400,000 ha

削減ポテンシャル

2.6億  
t-CO<sub>2</sub>/年

バイオ炭の  
炭素除去による  
ポテンシャル※2



炭素貯留量

約180万 t-C/年

削減ポテンシャル

680万  
t-CO<sub>2</sub>/年

炭素貯留量

約3900万 t-C/年

削減ポテンシャル

1.4億  
t-CO<sub>2</sub>/年

炭素貯留量

約5.1億 t-C/年

削減ポテンシャル

19億  
t-CO<sub>2</sub>/年

その他  
メソドロジー

• ポテンシャル

• ポテンシャル

• ポテンシャル

※1: 係数 2.2 t-CO<sub>2</sub>/ha/年で試算

※2: Shivesh Kishore Karan, Dominic Woolf, 2023 "Potential for biochar carbon sequestration from crop residues: A global spatially explicit assessment" をもとにフェイガー試算

FAEGER

---

株式会社フェイガー